



## 21 世紀の SF の世界は？

石樽 崇明\*

「〇〇研究会って何ですか？」と学生から聞かれた際に、「『エレクトロニクス実装学会』で検索してみれば出てくるよ。」と答えることが日常化しつつあります。わからないことがあれば、ネットで検索。研究会情報のみでなく、研究会の会場までの交通機関や最寄り駅への到着時間までも、ネットは答えてくれます。非常に多くの人がネット社会の利便性に浸っていることでしょう。さらに、ここ数年では、パソコンがなくても、携帯端末があれば何でも調べられてしまうようになりました。通信会社の社長の言葉にあった、この便利な“魔法の機械たち”が実現した背景には、長年、エレクトロニクス実装学会で議論されてきた電子部品実装技術の蓄積が大きく貢献していることは、私から言うまでもありません。今のこの便利な社会は、奇しくも 20 世紀に書かれていた SF 小説の中に描かれていた世界を実現し始めていると言えます。

しかし、その反面、ネット社会の、様々な「負の部分」も見えてくるようになりました。私の職場である、大学という教育・研究機関においても、年々問題が深刻化しています。入学試験の問題をリアルタイムでネットに流出させ、答を問うた衝撃的な事件もありました。また、大学では、教科書などの持込を許可する期末試験を行う場合がありますが、紙媒体である教科書に固執していると、ネット接続機能のある電子書籍という新しいメディアの扱いが難しくなります。更に、研究に関わる資料についても、多くの原著論文を、電子ファイルとして扱うことが多くなり、その配布・販売方法や取扱方法について、先が見えているとは言えません。とは言え、当エレクトロニクス実装学会の学会誌も電子化が進んでいます。個人的には、この電子化のうねりは、避けて通れないと思っており、簡単な作業ではありませんが、教育・研究の現場でも、大きなシステムの変更を考える時期に来ていると考えます。入学試験も従来型の試験方法を考えなおさないと、10 年後には、難関校の入試問題すら解いてしまうスーパーコンピュータが出現する可能性があります。

「ネットで調べれば答が見つかる。」本当でしょうか？見つかる答をどこまでネットにゆだねて良いのでしょうか？今、探さなくてはいけない答は、「ネット社会の先の社会像」ではないのでしょうか？現在の社会像は、振り返ってみれば 20 世紀の SF 小説に描かれていた「答」とも言えます。そう言えば、21 世紀の SF は、20 世紀のそれとあまり代わり映えがしないような気がします。未来に対する夢が無くなってしまったのでしょうか？SFこそ、科学技術にとって、手本とすべきロードマップです。タイムマシンを作って、未来を覗いてみれば答えは求まるのでしょうか？そのタイムマシンも 20 世紀の SF にありましたが。